

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第7回）

議事概要

- 日 時：令和7年6月26日（木）13:30～15:50
- 場 所：東川町せんとぴゅあⅡ多目的室（オンライン併用）
- 出席者：出席者名簿参照（会場出席17団体、Web会議室11団体）

■概 要

1. 開会

大雪山国立公園管理事務所・岡島所長より挨拶

2. 議事

（1）山岳トイレ等に関する検討課題の整理について

事務局・友野より、資料1、資料1別紙について説明

<質疑>

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

宿泊者の持参率が約90%となるなど、携帯トイレがかなり普及してきたと思う。一方で、稜線にあるトイレの改修について、大雪山国立公園100周年に向けて準備していかないといけない。そのためには利用状況調査が大事で、北海道が忠別岳避難小屋で実施しているように、他の避難小屋でも調査を2、3年やらないと思う。

●事務局 友野

携帯トイレ普及や稜線のトイレ改修など、いずれも5～10年位で達成できると良いことが多く、そこを目指していく方向で具体的に情報を整理し、本部会を有意義に活用していきたい。利用状況に関しても、資料1別紙の中でも把握できているものと把握できていないものがあるが、特に今後改修・改善予定のトイレ施設について利用状況の把握が必要なものは進めていけると良い。これは資料1の2.（1）に該当し、実際に取り組みを進めているところと情報交換しつつ上手く進められたらと思う。

●上川総合振興局 中島主査

利用状況の把握について、去年は忠別岳避難小屋にノートを置いていたが、今年も忠別岳避難小屋と上ホロカメットク山避難小屋については実施したい。1つ聞きたいが、資料1の2.の目標及び評価指標のところ、5～10年程度で各施設の改修や改善実施に繋がるとあるが、忠別岳避難小屋の改修も含めて最低5年後で。ここ2～3年ではないという理解で良いか。

●事務局 友野

忠別に関しては維持管理体制の調整が必要であり、2～3年後に完了とはいかないと思うが、本来は5年前後か以内にできればベスト。

●上川総合振興局 中島主査

現状の忠別岳避難小屋は梁や柱は大丈夫だが、壁面の状態がかなり悪く、例えば2～3年もつレベルだったら職員実行でもできそうだが、もう少し長くなるのであれば改修方法を変えたいと思い参考にお聞きした。

●事務局 友野

あいにく現状では後者になると思う。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

美瑛富士避難小屋は携帯トイレブースにカウンターを付けているので、毎年の利用数は把握できている。黒岳の利用者数もわかると思う。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

白雲岳はトイレ自体では利用者数を数えていない。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

白雲岳は小屋に泊まっている人の数は取れているので、ある程度は想定できる。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

当会で裏旭野営指定地のテントの利用者数を定点カメラで調査していた。トムラウシ南沼も同様に利用者数を把握した。上ホロやヒサゴは、野営地は定点カメラ、小屋の方はノートを置いて把握する方法しかないと思うが、トイレもカウンターを置いて利用者数を把握する方法はできると思う。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

既に利用状況を把握できているところは課題として挙がっていないので、資料と一緒に入れておくと整理できると思う。

●事務局 上村

南沼汚名返上プロジェクトの中で、モニタリングとしてテント数の確認を今年も継続している。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

前提をひっくり返すことを言って申し訳ないが、私は5、10年後はもっと大雪山に人が来てもらいたいと思っている。大雪山にはまだ集客のキャパはあるし、自然環境は圧倒的な場所もあるし、地域の宝にもっとなりうると確信しているが、そのためには保全の体制をしっかりとしなければならない。それで、利用のインフラとしてトイレは基本中の基本であり、人が来るという状況で考えれば、携帯トイレの促進よりもトイレを常設して使えるようにしていくのが基本だと思う。私たちが使うのであれば携帯トイレで十分だが、観光客がお金を落として利用するには常設トイレでなければならないと思う。なので、私の将来的な目標は携帯トイレ普及宣言の継続ではなくて卒業。なぜ今は携帯トイレ普及宣言が必要かという、トイレが足りないことと、既にあるトイレのし尿回収ができないことが理由で、仕方なく携帯トイレの普及を行っている。だから、常設トイレをきちんと作っていくことに変えてほしい。そのためにはし尿の収集方法の検討が絶対条件になると思っており、その検討ができて、お金や労力も含めて回るような状態になれば、どこもかしこもではないが各所にトイレは作れると思う。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

私も同意見。今急に常設トイレを作ることは難しいが、処理方法と維持管理が確立すれば常設トイレの方がよく、携帯トイレは補助的なものと思っている。携帯トイレの持参率が高くなったのも、野営地が綺麗になったのも普及宣言があったからだと思うが、例えばし尿の処理をドローンで運搬するなど出来るようになればそれは変わっていき、携帯トイレでなく普通のトイレにしていく方がよい。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

携帯トイレは継続させることが目標ではないということはおかねてから言ってきた。現時点では必要だからこそ、高原沼にも2基設置してもらい使用を進めている。ただし、これが本来ではない、再検討してほしいということもずっと言い続けている。今回はもう少し具体的に、収集方法が確立できた時には携帯トイレ普及宣言の再検討をして下さいと言うことにしたい。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

岡崎氏の意見にずっと賛成しており、携帯トイレは今そこにある危機を乗り越えるためには必要だが、これが恒久的な解決策ではない。同様に協力金やクラウドファンディング等、今ある危機を少しでも回避できる方法があると皆それに走ってしまうが、もう少し根本的で持続可能な方法を本来は議論していきたい。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

今後色々な場所で常設トイレができる可能性があるが、携帯トイレも補助的なものとして継続は必要と思う。トイレのないところで使う人はいると思うし、そのためには回収ボックスも必要で、そういう環境は残しておいてほしい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

山のトイレを考える会も以前から携帯トイレだけを推進したかった訳ではなく、南沼も美瑛富士でもトイレを設置して欲しいと署名活動を行い、環境省と何年も協議する中で維持管理や予算の課題を指摘されたり、全国各地で設置されたバイオトイレの利用状況や管理状況を見た時に、技術的にも未だうまくいかないということも分かった中で、大雪山としてはとりあえずし尿が散乱している状況はできるだけ避けるための手段として携帯トイレを普及してきたところがある。なので、携帯トイレが最終解だとは思っていない。環境省や林野庁が国立公園を管理するための予算を十分に取って、それなりの立派な施設を建てていただくことが本当は理想だが、そうはいかないので、登山者も含めて皆で協力してなんとかやりましょうというのが今の携帯トイレのはじまり。一方、仲俣氏が言われたように、それでも人が少ない場所や技術的にも設置しにくい場所が残るので、そういう場所では携帯トイレを使い続けるしかないだろうと思う。それらは大前提だと思っていたので敢えて議論することはなかったが、どこかに書いておいた方がよい。例えば広報、普及啓発のところでは携帯トイレから話を始めるのではなく、本来認知してもらいたいのは山岳トイレの課題であって、その上での選択肢として携帯トイレをさらに使っていただけるような普及啓発を行うという話の順番で整理をしておいた方がよいと思う。

資料 1 の 2. (2) 汚泥等搬出手法の検討について、ドローンやスノーモビルでの運搬を検討することになっていたと思うが、進捗状況を教えてほしい。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

道内のドローンを試運転できそうな会社 3 社くらいに絞って話を始めようとしているところ。進捗次第ご報告したい。

●事務局 友野

環境省でも具体の進捗には至っていないが、資料に記載の通り山岳物資輸送手法検討という名目で今年度予算を確保している。主に白雲からの運搬の検討などに充てられると良いと考えており、岡崎氏等と相談しつつ今シーズンに何らかの結果を出せるようにしたい。

●十勝山岳連盟 齋藤会長

当初、本当はトイレを設置してほしいというのがこの部会の始まりで、それは現状では無理だから携帯トイレの普及に至ったと思う。テン泊するようなところでは、携帯トイレでも何とか我慢できるが、山の上にもトイレがあれば一番よい。麓にトイレがあればなんとか一日は我慢できるので、日帰りできるようなところでは、できれば麓にトイレを設置していただきたい。また、携帯トイレ回収ボックスの設置が市町によってはかなり負担になっていないか、意見を聞いてみたい。

●上川町役場 合佐昆主事

愛山溪温泉に回収ボックスを置いており、町で回収しているが、処理の仕方が難しく、グレーな

部分もある。他の回収ボックスは層雲峡を美しくする会で回収してもらっている。職員の手間にもなっているし、処理方法についても今後改善すべき点もある。

●層雲峡ビジターセンター/山樂舎 BEAR 佐久間インタープリター/代表

層雲峡ビジターセンターの回収ボックスではハイシーズンになると結構な数の携帯トイレが入る。週に2回、燃えるゴミとして出しているが、数が多い時は結構匂いがして、仕事としては正直辛い時もある。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

当会で、回収ボックスの中に洗濯かごを2つ入れて回収しやすくした。白金温泉は観光客にゴミを入れられるから鍵をかけている。実際に回収する人は大変だと思う。普通の事業用の一般ゴミ、例えば施設のオムツのゴミ処理などと同じと思っている。

●かみふらの十勝岳観光協会 青野会長

十勝岳温泉公共トイレの横に回収ボックスがあり、一昨年まで白銀荘がトイレ掃除も含めて携帯トイレの回収をやっていたが、去年から凌雲閣で全て受けるようになった。上富良野町が購入した一般ゴミの袋を凌雲閣に置いており、旅館のゴミを出す時に事業者ゴミで出している。北海道の公共トイレは古く、トイレトペーパー入れですら壊れていたりするので、徐々に修繕を希望していきたい。また、トイレの中の機械のベルトが壊れたとかも今年にあったので、随時道に言っている。道から委託を受けている上富良野町の荒田工業で全部対応してくれる。私たちは施設の目の前にいて色々なことがわかるので、少しずつ綺麗にしていきたい。

●上士幌町 松岡主査

特に今のところ回収について問題に挙がったことはない。(チャットにてコメント)

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

場所によって少しずつ課題が違ってきているが、ノウハウ等を共有しながら対応を進めていただけると良いと思う。

●事務局 友野

携帯トイレ普及宣言はそれなりの効果を上げてきたことは間違いなく、その次の段階に移るべきであるが、携帯トイレを今後無くしていくということでも恐らくなく、次の目標は山岳トイレのより包括的なことになっていくのかと思うがそれが何かということが課題の一つ。また、公的機関で莫大な予算を確保してのトイレの処理方式や搬出方法の確立は、一番極端な解決策としてはあるものの現実的ではなく、何かしらのロードマップを作って進めていくものと思うが、その中でこのトイレ部会で何ができるのかということは少なくとも事務局内ではまだ考えが全くまとまっていない。今回の資料では5~10年スパンで解決できそうなことにまとまってしまっているが、それを乗り越えていくにはどういう道筋や着目点があるか、できれば皆さんから広範な意見をいただいた上で考えていきたいのでご意見をお願いしたい。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

登山道もそうだが、将来のことを議論するときはどのような利用をさせたいかから始めるべきだと思う。私の感覚では、登山道が良くなっても来る人は増えないが、トイレが設置されているかどうかで来る人は増える。それ位皆トイレを気にしていて、インフラとして生態系を守るためには登山道の方が大事だが、利用促進の意味ではトイレは非常に大事。大雪山にはもっと人が来てほしいしそのキャパはあると思うので、そのインフラはしっかりしていきたいと思っている。スノーモビルで運搬できる場所は現時点でも2箇所あり、費用の概算は多分すぐに出せる。これから検証を進めるドローン運搬が可能になれば、もう場所を問わずできるようになるし、その概算も出せる。そ

れをこの場所なら協力金でいくら取れるかも出せるようになるかも知れない。こういう利用をしてもらいたいという目標があって、その中でトイレをどのように充てがっていかを考えていけば、ここにトイレを作って管理方法をまず確立させようといった話はこの場で十分できるのでは。例えば黒岳七合目にトイレをぜひ作ってくださいとりんゆう観光さんに土下座してでもいいから頼み込んで、そこで集まったお金で管理します、協力して下さいと言って建ててもらおうとか、それができれば黒岳のトイレ問題は結構減る。旭岳石室にトイレを作って、石室からロープウェイの運搬方法さえ確立すれば、トイレで往復しなくて済むという方も増えると思う。ロープウェイさんが全部やってくれよ、金払うからいいだろうではなくて、こちらで管理の方はこういう形でできます、ここは誰々が負担できますという話し合いはできると思うし、そういうことをやっていくと環境省が莫大な予算をかけなければできないところはかなり少なくなるのでは。そういう議論の場としてはこの部会は悪くないと思うが、携帯トイレ普及がずっと続くなら、ちょっと厳しいし、勿体ないと思う。

●Asahidake Trail Keeper 藤代表

設備をしっかりとして供用するためにはお金を集めることが必要だと思う。常設トイレを設置していく場所には野営指定地が多いのではと思うが、野営指定地の宿泊にお金を取ることは考えられないのか。昨年、アンケート調査で裏旭に泊まり込んでいた時に、料金の徴収だと思われて結構聞かれ、払うのが当たり前位に思っている人も多かったので、仕組みさえあれば取っても良いのでは。それをし尿の搬出等に充てられたらちょうどよいと思う。

●事務局 友野

今回、野営指定地でのトイレ関係施設や管理状況の資料を作成して追加している。野営指定地の宿泊で料金を徴収しているのは現時点で黒岳と白雲の2ヶ所。管理者の判断で徴収することは可能だが、それにはまず野営指定地が管理されていることが必要であり、野営指定地の管理の問題に繋がるということになる。登山道と同様、施設管理上の必要で料金徴収を検討することは自然なことで、最初から可否が決まっていはいない。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

大雪山全域で入域料的に有料とする方法も1つのはず。

色々のご意見があったが、検討課題の整理は資料1をもって進めてもらい、特に普及啓発の部分ではまず山岳トイレ問題自体を認知していただいた上で携帯トイレの普及を進めるというように修正するなど、整理をしていただきたい。

(2) 大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項について

事務局・友野より資料2について説明

<質疑>

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

裏旭野営指定地では何年か前に定点カメラを用いて2年間調査し、その結果を冊子にまとめて公表している。黒岳七合目付近では先ほど岡崎氏が言ったようにトイレを設置できれば一番よいと思うが、未だかなり時間がかかると思うので、例えば五合目の駅に多言語で何か掲示をするとか、七合目のリフトの終点はトイレがないので五合目で済ませてくださいというようなアナウンスをロープウェイで行うといった方法が考えられると思う。また、大沼の利用者は本格的な登山者に限られると書いてあるが、登山口から湿原まで2時間位で行けるし、凄く眺めが良いので初心者が初めてテント泊をする時にも使っている。去年、当会で調査して、サンプル数が少なかったため結論は出なか

ったが、そういうデータを取った後の検証にこの配慮事項が使えるのかなと思った。

●北海道大学 渡辺名誉教授

項目の 3-5 について、「利用者数を考慮」は言い換えると登山道と同じで来るもの拒まずということと本当に良いのかというのものもあるが、3-4 と 3-5 に関してはある一定の整合性があるかと思う一方で、3-6 は 3-4 や 3-5 と矛盾するというか無視していることになる。コースタイムで 2 時間程度というようなことを考え方として入れていいのか伺いたい。また、黒岳七合目について、結局は結論として項目 2 が大きな課題になるから手は付けられないということで本当によいのか。処理方法は問題かも知れないが、お金をかけて運搬しようと思ったら黒岳は一番しやすい。これだけインバウンドが入ってくる中で、トイレがないことを放置しておいて良いのだろうか。

●事務局 友野

配慮すべき項目は前回部会に向けて作業した部分だが、2 時間程度置きにすれば良いのではという意見もあって入れており、また必要性は一番低いところに入れていた。必要性や妥当性に関しては個人的にもどうかと思うところもあり、ご意見を踏まえて再検討をできればと思う。黒岳七合目付近に関しては、この配慮事項の中で優先順位が高いとか設置すべきとなった場合に、設置者や管理者が必ず自ずと明確になるとは限らず、それはまた別問題となる。そこをどう進められるは、この配慮事項でも触れられていない範囲になり、切り離して考えなければならないと捉えている。項目 2の方が大きな課題だから配置を諦めなさいと言っている訳ではなく、設置者・管理者は全く別問題で、非常に大きな課題として考えなければならないところ。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

大沼のところ、「本格的な登山者」は違和感があり、「利用者は少ない」で良いと思う。それから「項目 3-4 や 3-5 への適合度は低い」というところも良いと思うが、その次の「項目 1-1 による必要性」との記載には 1-4 も入ると思う。1-1・1-4 はかなり優先順位が高い方に入る項目、3-4・3-5 はレクリエーション体験で大沼の広いところにテントを張って大雪山だなという利用体験ができるということを比べると、自動的に大沼はダメということになるという解釈もできる。天秤にかけるということは、これから大雪山における利用のあり方に関係してくる。今まではそうだったけど、これからもそうなのかというところの判断を、いつかどこかでやらなければならないと考えている。それはこれから皆で議論していくことだと思うが、そういう意味ではこの考慮すべき順位付けは今後のための材料になるのではないかと思う。

●事務局 友野

沼ノ原大沼での、1-4 への適合に関しては、し尿がどれだけ沼に負担をかけているかといったことに関してはまだ情報不足ではという理解。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

今の部分は事前に修正した箇所だが、山口氏の仰る通りであり、また調査した結果をチェックするためにということを仲俣氏が仰っていたが、逆もあってどういう調査が足りないかの確認にも使えるかと思う。1-1～1-4 は、まず大雪山の自然を守ることが大前提で、そこにトイレを置かなければ周りの高山植物が踏み荒らされてしまう、沼が汚れてしまうというような場所、急いで何らかの対策を打たなきゃいけない場所が一番優先されるべきだということ。もちろん皆さんに快適に利用していただきたいのと、利用者が多いところにトイレが欲しいということもあるが、それでもまずは大雪山の自然を守ることが大事ということで、前回部会でもそういう議論を行ったと思う。その点、沼ノ原大沼にトイレがないことで湿原や沼にどの程度影響を与えているのかは未だ調査できていない。裏旭は野営指定地としてどうかという話を私も時々するが、南沼とは違って風衝地で

植生が薄く、踏みつけの影響などが分かりにくいし、雪で被っている所も多いのでその影響が見えにくい。十分に調査ができていないということが当てはめてみると分かるかなと思う。黒岳七合目は悩ましいところで、そこに設置できるのか、誰が作るのか、維持管理をしていくのかがやはり問題になる。例えば、林野庁の事務所に一般登山者も使えるようなトイレを作るということについてはどう考えているか。

●上川中部森林管理署 大谷地域林政調整官

具体的に考えていることはなく、森林管理署で設置するのを実際にできるかどうかといえば正直なところ難しい。例えば他者の使用の許可を出すといった形での協力はできると思う。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

突然振って申し訳なかったが、インバウンドを含め、雲海を見るなど一般の観光客も利用している場所なので、事務所でもトイレはどこにあるのかと聞かれたりすることもあるのではと思って聞いてみた。

資料のタイトル自体を配慮事項と今回変えているが、基準とすると、どうしてもそこに設置できるのかどうかという話になってしまうので、そうではなく、必要性の検討がなされた時に設置に向かう場合の配慮しなければならない事項の優先順位を示した資料になっている。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

環境省の沼ノ原大沼の巡視業務ではし尿痕の確認といった項目はなく、見てもそういう痕跡はないので特に報告していないが、点検項目に入れて結果を部会で共有することはできると思った。

利用者数について、黒岳石室のトイレも一応利用者数をカウントして建てたが、その結果利用者が多すぎて、あそこは唯一の失敗事例だと建てた業者が言うほどになってしまったと聞く。今、忠別小屋も建て替え検討と聞いており、白雲も建て替えてからコロナ時には減ったがまた徐々に増えている状態。要は、利用者数調査は必要だが、良いものを作ったら利用者はまた増える。だから利用者数をどれくらいに設定しておくのか、そのための利用方法はどのようなのかという基準が必要で、こういった検討をしていく中でそれがどこに書いてあるのか分からないので、作る時に考える話なのかと思うが、本当はそこから始まるべきと思う。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

黒岳石室トイレの失敗の原因として私が理解している一つは、現状の利用人数に対して設定したキャパが低かった。なぜ低かったかというと、メーカーに言われるままに計算したのでそうってしまった。二つ目は元々加熱が前提なのに加熱が上手くできなかった。最初はバッテリーを入れたり、太陽光を入れたり、風車を入れたりして電気を確保してやろうとしたのが、風が強く設備が飛んだりして発電が上手くいかなかった。三つ目の理由として、トイレが良くなったので、現状の利用人数よりも多く利用された。これらが複合して上手くいかなかった。さらに、四つ目の理由として、バイオトイレが上手くいかなかった時にどう対処するかという選択肢がなかった。その後の対応としては、上川総合振興局と上川町が毎年かむいさんにも手伝ってもらってトイレの掃除や搬出をしている状況と理解している。今後 TSS 方式や色んな方式を入れても同じような想定外が起こる可能性がある。その時にどう対処すべきかという、プラン B を用意しておかないといけない。行政の常で、予算は一回きりだからうまくいった時のことを想定しているが、うまくいかなかった時のことはあまり考えてないということがある。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

裏旭野営地では環境省で効果実証試験を3年間実施して、その前に当会でも色々とデータを調べて公表した。維持管理を誰がするのか決定すれば、設置に向けて進むという風に思っていたが、前回

の部会では、土地所有者である上川総合振興局の南部森林室が設置場所だけでなく野営地全体の土地借用が必要と言われたと聞いている。野営地には管理者がいないが、何とか設置場所だけでも申請して許可できるような対応を進めてほしいと思う。南沼の土地所有者は国有林だが、携帯トイレブースの設置に係る土地借用許可申請の手続きはそんなに難しいことなのか。

●上川中部森林管理署 秋元地域統括森林官

国有林の方にトイレブースを置きたいという申請を事前に出していただければ良い。国有林としては、そこが国立公園なので、環境省で網をかけている法律上で問題がなければ良い。仮に地べたが国有林で、北海道がそこを遊歩道や野営地として維持したいというご相談があった場合、土地の保全や環境についても道が管理してくださいということで賃貸借契約を結ぶ。一回契約を結んだところに建物を建てたいとなれば、第一にそこを借りている北海道が判断する形になる。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

南沼も野営指定地の管理者はいないが、土地は十勝西部森林管理署で歩道は北海道ということで整理をされているのかと思う。美瑛富士の場合は、環境省と美瑛富士トイレ管理連絡会と美瑛町の3者で維持管理の協定を結んでいる。

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

維持管理はそうだが、3者協定と関係なく土地はその面積だけ環境省で借りていると思う。裏旭もそれと同じようにできないのか。そういう話を進めていただきたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

今の話を聞いていて思ったのは、項目の2番目で「維持管理体制の確保」となっているが、先ほど黒岳の話でもあったように、その場所に応じた適切な処理方法を選択できるかどうかトイレの配慮事項を考える上で1つ重要な点かもしれない。維持管理とその処理方法に、2-1と2-2に分けて、項目を設けたらどうか。黒岳石室は、キャパに関するミスコミュニケーションが振興局とメーカーとの間で起きたのが最大の原因だと思っている。

資料は事務局で修正し、期間を設けてメーリングリストで回していただいて、案を取って今後用いていくということをお願いする。

(3) 携帯トイレ普及宣言推進事業について

①インバウンド向け携帯トイレ動画の制作について

事務局・高橋より、資料3についてイメージ動画の放映も交え説明

②富良野岳 携帯トイレブース設置・普及キャンペーン

事務局・菅野より、資料4について説明

③黒岳 携帯トイレ普及キャンペーン

事務局・高橋より、資料5について説明

④「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の販売に関するご案内

事務局・高橋より、資料6について説明

<質疑>

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

携帯トイレ普及キャンペーンは現状では必要な部分もあると思うが、非常に気になっているのは、地元の高校山岳部など若年層と連携した普及を行っているが、この子たちに山では携帯トイレを使うのが善・使わないのが悪と言う認識がついた時に、それ以外の手法でも山で楽しめることがたくさんあって特にアウトドアでトイレのやり方を知らないという方が不幸せだと思う。山岳部の

子たちももしかしたら海外遠征に行くかも知れず、その時に携帯トイレがないからダメとか、そんな人にはなってもらいたくない。携帯トイレはあくまで手段の一つで、仕方なくやっているということちゃんと伝えてほしい。本当はトイレがあるべきだし、トイレが普及した時には小人数であればその辺に入ってやるというのも山岳としてはありなんだよっていうのが前提で子供たちに話さないといけないと思う。そうでないと、10 年後に携帯トイレブースからは卒業しましたともしこちらが切り替えることができた時に子供たちは困ってしまう。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

今年は当研究室が行くので、十分留意したい。富良野岳のお花畑に置いてあるブースをまだ見ていないので見ておきたいのと、ここでのトイレの問題が実際どの程度のものなのかも含めて、伝えていくことを関係者の皆さんとできればと思っている。

●NPO 法人大雪山自然学校 大塚保全員

動画について、携帯トイレの袋を設置しているところの部分が文字に隠れて何に設置しているのかわからなかったのも、そこは文字の位置を変えるなどした方が良かったと思った。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

今は仮の動画で今後、鮮明な映像で撮り直しを行うということ。「ビジターセンター内に」と書いてあったが、旭岳や層雲峡も回収ボックスがあるのは外。登山口などと言った方がよいのでは。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

こういった動画制作時に精査は誰が行っているのか。英語表記などは専門家に確認しているのか。

●事務局 高橋

今回の動画は英語ができる方に動画を作成していただくことになっていて、本日流したものは日本語だが、実際は英語のサブタイトルが入る。精査ということでは、最終的にロバート・トムソン先生にも少しお伺いしたいと考えている。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

いま大雪山で観光情報発信のための色々な動画を作っていて、環境省発注なのか他のところなのか分からないが、専門家が聞いたらあれっと思う表現もある。自分達も特に公開する時には、間違っていないか、間違っていたらすぐに修正できるかなど色々考えている。そうでないと大雪山が間違っって伝わる可能性があるのも、そこはよろしく願いしたい。

●かみふらの十勝岳観光協会 青野会長

十勝岳温泉でもこの動画を流させてもらいたいと思っているが、一番はじめに「大雪山へようこそ」ではなく「大雪山国立公園へようこそ」と言ってもらった方が良い。大雪山は旭岳と言うイメージがあるので。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

この動画はまた皆さんに見てもらう時間はあるか。

●事務局 高橋

この動画は時間をかけて取り組みたいと思っているので、途中で見てもらいたい。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

ぜひ検討してもらいたい。午前中の登山道部会で話した、地名や用語の英語表記の統一について、それぞれの観光協会や各市町が作るものもあるのでなかなか難しいと思うが、環境省としてそれぞれの名前の表現を統一しているのでできればそれを参考にしてください、という位のことはやっても良いのではと思う。

●NPO 法人かむい 濱田代表

動画に、下山するまで持ち帰って下さい、といった文言を加えて欲しい。黒岳や赤岳でも携帯トイレブース内に置いてかれることが結構ある。しかも、そういう人は隙間を見つけて隠すように突っ込んでいき、こちらがしばらく気づかないこともある。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

山のトイレを考える会が作成するトイレマップにも、必ずしも下りた登山口に回収ボックスがあるとは限らないので、登山口の回収ボックスに入れるか、ない場合はご自宅まで持ち帰って、それぞれの自治体の処分方法に従って処理をお願いします、という表現を、しつこいが行ってきたので、それも参考にさせていただきたい。

●Asahidake Trail Keeper 藤代表

細かい心配かも知れないが、携帯トイレを持っていますかと外国人に聞くと、ビニール袋を持っているから大丈夫と言われることがある。知っていてごまかしている可能性もあるが、ビニール袋と携帯トイレの違いがあまりわかってない可能性もある。動画の字幕だけでも良いので、凝固剤が入っているとか、匂いが漏れにくいようになっているということが分かりやすくなっていると思う。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

新しい携帯トイレの使い方のパンフレット案が ML で送られていたと思うが、その作成時にはロバート・トムソン先生にも見ていただいて修正している。そこで直していただいた表現を、今回の動画にも使って作っていただきたいと思います。

3. 報告事項

<各構成員における取組状況及び取組予定>

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

資料 7 について説明。2019 年から山のトイレマップを宿泊施設、ビジターセンター、ロープウェイなど 20 か所に置かせてもらっていたが、携帯トイレブース、回収ボックスの周知が進んだため、来年度から紙の配布をやめてネット上での閲覧も検討したい。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

高原温泉沼巡り登山コースの携帯トイレブースは元々スタッフ用で、女性スタッフが多くなって一日中山にいないといけない時に非常に困り、相談してつけた。正直、2 か所も要るかなと思っているが、毎日必ず回って掃除もし、2 か所置ける体制なので、環境省の仕様書にも 2 か所とあるので今期も一応付けようかと思っている。今後、協力金が取れるようになるならば携帯トイレブースではなくトイレに変えて、し尿運搬をスタッフが対応するという方向に変えても良いと思っており、その検討は徐々に行っていきたい。

●NPO 法人かむい 濱田代表

コマクサ平の携帯トイレブースも例年通り開けている。既にかかなりの利用があって、回収ボックスにもだいたい入っている状態。今ちょうどコマクサ平に蝶がいるので、結構停滞する人が増えてきていて、それで使っている人もいるかも知れない。また、去年から回収ボックスの清掃、荷下げも全て行っている。今年は 90L を 2 つ下げているので、それなりに使われている。

●北海道大学大学院農学研究院 愛甲教授

本来は先ほどの登山道維持管理部会で話すべき内容だが、愛別岳訴訟の件について部会内で共有しなくて良いか。今週月曜日に日高山脈の登山道部会があり、そこで今年 4 月に出版された雑誌「國立公園」の記事を資料として皆さんに配った。山の関係で有名な溝手弁護士がその裁判の意味・意

義を解説し、大雪山グレードとの関係を解説された記事を書いていらっしゃるの、ぜひ皆さんにも共有した方が良いと思った。裁判の経緯自体も細かくは報道されておらず、皆さんにあまりよく伝わっていないが、遊歩道ではなく登山道だからという理由で原告側の訴えが全部退けられている。日高の方で、協議会のメンバーに共有する程度ならコピーして配って良いと言っていたいており、再確認して大雪山の方でも共有して良いか聞いて、共有させていただいたらと思うがいかがか。是非読んでいただきたい内容だと思う。

4. その他

<全体を通して報告や共有事項等>

●山のトイレを考える会 仲俣事務局長

利用料を取るのはかなり難しいのかも知れないが、協力金として、各登山口に大雪山で規格を統一した盗まれない頑丈な箱を設置して、例えば500円ほど取る、というのはどうかと思った。登山口であれば、ロープウェイ事業者にはあまり負担がない。例えば500円が1万人だったら500万円になるし、2万人であれば1000万円になる。

●合同会社北海道山岳整備 岡崎代表

自分も検討したことがあるが、大雪山は地元以外の人たちもたくさん使う場所だし、そういう人を呼び寄せている。そういう人たちで何も情報なしに来る人はまずいないと思うので、ウェブで予約するような時にお金を取ってしまうのはありだと思う。山小屋も縦走利用も結局欲しいのは泊まる人なのかなとも思うので、もちろん日帰りでも出してくれる人がいれば良いが、トータルで考えてお金を取るようになっていた方がよい。ウェブの力を活用し、大雪山を一元化して捉えて情報発信をしっかり作り上げるとい、かなり壮大なことが必要になってくるが、一方で仲俣氏の仰る通り、来た人がお金を払ってそれが管理に回るのはあるべき姿だと思うので、ウェブじゃなくて登山口でお金を取るという方法でも構わないし、どんどん進めていくべきだと思う。

●層雲峡ビジターセンター/山樂舎 BEAR 佐久間インタープリター/代表

岡崎氏の意見に基本的には賛成だが、ビジターセンターで実際に外国人の対応をしていると、あまりにも何も考えずに来る人の数が圧倒的に多くて、毎日うんざりという状況。登山道、トイレ、安全面やクマに関しても全部そうだが、一応宿泊で来るが、何も考えてなくて、何したらいいんでしょうというような人が多い。4月5月は閑散期で旅行代金が多分安いので結構多い。外国人で3泊で来たけども何をしたいのかと聞かれても、こちらも答えられないというような状況が結構多くて、あまりないと答えたらじゃあ適当にこの辺をランニングしますという人とか、そういう人たちも結構来るので、本当に情報発信は難しい。あらゆる場面でそうだと思うが、こちらが発信しているチャンネルと受け取る人が全く噛み合っていないことが多い。だから、登山口に募金箱を置くというよりはスマホ決済の方が良いとは思いますが、それ以前に来てくれる人の意識を高めることはできないとは思いますが、インバウンドウェルカムでどんどん誰でも来てというよりはもう少し抑制的な情報の伝え方をした方がこちらとしては助かるという意見を持っている。

●山岳レクリエーション管理研究会 山口事務局長

午前の登山道部会でも言ったが、適正利用と人数については富士山が良い例で、軽装登山はやめてください、宿泊予約がない人は登らないで、弾丸登山はしないでくださいと言っていて規制を始めている。大雪山も将来的に多分こうなってくる。トイレ部会も登山道部会も、大雪山においてどんな利用の仕方、どんな格好をして来るのが適正かと、場所ごとのキャパは今後議論していかなければならないし、広報も含めて進めていければよいと考える。

5. 閉会

以上